（高校の）１年　　組　　番　　氏名

読書記録 No.　（例）　　２０２２年２月２５日（記録を書いた日）

書名	著者名（・訳者名）	発行年　2011 年 8 月
『君たちはどう生きるか』	吉野源三郎	出版社　ポプラ社

あらまし

自分は広い世界を構成する要素の１つだという気付きをもった主人公のコペル君が、おじさん、小学校時代からの同級生である水谷君、がんこな部分がありながらも愉快な北見君、家が貧しくいじめられていた浦川君などのさまざまな人とのかかわりの中で、人間とはどのような存在であるのか、社会とはどのように成り立っているのかを考え、成長していく中学１年生の１年間が書かれた物語である。

読後感

私がこの本を読んで感じたのは、自分で考えることの大切さだ。コペル君は、さまざまな出来事に遭遇し、そのたびに自分なりの考えをもって行動に移している。今までの自分を振り返ってみると、言われたことをその通り真面目に行ってきただけで、このままでは「りっぱそうに見える」としても中身のない人になってしまうと感じた。おじさんのノートに今のコペル君は「消費専門家」だと書かれていて私がドキッとしたのも、きっと今の自分にできることが何もないことを思い知らされたからだと思う。そこから、消費ばかりしている私にも生み出せるものはなんだろうと考えた結果が、自分で考えること、考え続けることであった。これから私たちが生きていく社会では、正解のない課題に立ち向かうことになるとよく言われている。そのため、受身の姿勢でばかりいては太刀打ちできないだろう。だから、自ら考え、行動する力をもった人になりたいと思った。

※あらましは本の内容について書く。
読後感には感想、批評、自分ならこう考える、印象に残った表現、こんなふうに役立つなど、本を読んで感じたこと、考えたことを書く。
ワープロで作成する人は、適宜行を追加して書いても構いません。
手書きで作成する人で、行が足りない場合は、欄外の余白部分や裏面に書いても構いません。
提出する際は左上をホチキスで留めること。